

論文要旨

Summary of Dissertation

2022年 12月 26日

Date (YYYY-MM-DD):

専攻 Department	都市イノベーション専攻
氏名 Name	劉娟
論文題目 Title	中国における「翻訳絵本」の受容に関する研究 ——児童教育との関連を中心に——
和訳または英訳 Translation (J->E, or E->J)	Translated picture books in children's education in China
<p>中国において、2000年以降急成長を遂げた「翻訳絵本」は、2010年代以降には、授業実践で盛んに用いられ、また「翻訳絵本」を取り入れた教材の開発も進んだ。本稿では、小学校・幼稚園を中心とする教育現場において、「翻訳絵本」を言語・国語教育の「教材」として使うという、中国における「翻訳絵本」の受容上顕著な特徴について、2000年以降「翻訳絵本」がどのように中国社会に浸透していったのか、その経緯やなぜ教育活動に取り入れられるようになったのかについて、児童教育との関連を中心に、解明を試みた。</p> <p>これまでの先行研究でほとんど指摘されていない「翻訳絵本」と中国の児童文学を用いた児童教育との関連について、以下の三つの問い、1) 2000年以降「翻訳絵本」が中国に浸透していった実態、2) 児童教育の「教材」として「翻訳絵本」が受容されるという中国的特徴を生んだ原因、3) この特徴が中国における「翻訳絵本」の受容に与えた影響、を立てて、児童文学理論書、政策法令、様々な統計、「翻訳絵本」が載録された国語教科書、中国国家図書館の児童書蔵書目録・絵本推薦目録、新聞記事を用いて、国家の政策、中国国家図書館、教育現場、家庭及び出版社の相互作用という視点から、児童教育における「翻訳絵本」の利用の展開と実態を個別に論じてきた。</p> <p>第一章では、中国の児童が社会全体においてどのように認識されてきたのか、児童文学がどのように誕生したのか、また、児童文学を通して児童がどのように教育されてきたのかを明らかにした。ここでは、こうした中国の児童文学における子ども観・教育観はどのように発展・変化してきたのか、という文脈を明確化し、中国の「翻訳絵本」の受容の背景や特徴を深く理解するためのプラットフォームを構築することを目的とした。</p> <p>中国における「子どもの発見」は、1919～1921年にかけて展開された中国社会の近代化をめざした「新文化運動」の影響下で実現した。「新文化運動」の大きな功績の一つは封建的重圧から人間を解放し、個性を確立するという「人間の発見」である。「人間の発見」は「児童の発見」を導き、「児童の発見」はまた「児童文学の発見」を導く。中国において、児童文学は20世紀初期の誕生時から小学校の国語教科書に掲載される主な教材として国語科カリキュラムに取り入れられていた。そのため、児童文学理論の研究は師範教育における国語科の教員育成の過程において発展していった。このように、中国では、児童文学理論は、主にまず現場教員、教員を志望する学生に受容されるという傾向が明らかである。そのため、時代ごとの教育方針を強く反映する児童文学理論書に起きている変化も直ちに教育現場に伝わり、受容されるという構図がはっきりと見えてきた。それが、中国の児童文学が主に児童教育の中で発展してきた特徴を反映している。</p> <p>第二章では、この特徴のもとで、中国のオリジナル絵本が、児童文学理論においてどのような扱われ方をしてきたのか、その歴史について考察した。こうした特徴と中国のオリ</p>	

オリジナル絵本のあり方との関連を解明することは、中国において児童文学と見なされている「翻訳絵本」の受容の特徴について理解する手がかりにもなる。

中国のオリジナル絵本の勃興は児童文学の誕生に伴って始まった。1920-1930年代に「図画故事」が小学校低学年の国語科等の補助読み物として、盛んに出版された。「図画故事」は絵本とはいえ、一般に考えられる絵本と大きく異なっていたのは、読み聞かせることを前提としておらず、小学校低学年の児童の自発的な読書を促すためのものであり、また教員が教材として使うこともできるものとされていたという点である。新中国成立後から1980年代まで、「図画故事」「図画書」は児童文学理論書において、ほとんど取り上げられていなかった。2000年以降、中国において「翻訳絵本」及び外国の絵本理論書が盛んに出版されるようになり、その影響で幼児文学・児童文学理論書において、「図画書」の定義・分類は大きく変化した。独立したジャンルとされるようになり、絵本という言葉ジャンルとして使うこともあった。また、幼児文学・児童文学理論書におけるその定義の説明は、「翻訳絵本」及び外国の絵本理論を用いて肉付けされた。さらにこうした動きに伴い、中国にはほとんどなかった親から子への読み聞かせも紹介・推奨されるようになったことを明らかにした。

「図画書」がそのような発展を遂げることができたのは、外国の絵本理論書、特に中国では、日本における「絵本の父」と称して紹介している元福音館書店編集長の松居直の絵本観に関する著書の翻訳出版が、「図画書」の創作、理論研究に大きな影響を与えたこと、2000年以降の中国で「翻訳絵本」の出版が急激に増加したこと、の二つの要因によるものだと論じた。

第三章では、中国において、「翻訳絵本」がどのようなプロセスで社会・家庭へと浸透していったのか、絵本市場にどのような影響力を持っているのか、なぜこのような急成長を遂げたのか、という中国における「翻訳絵本」の社会・家庭への浸透の経緯や現状を、新聞記事と様々な統計を用いて、明らかにした。

まず、1990年代末から2010年代初頃までの新聞記事を手がかりに、2000年代末からの中国の絵本受容における顕著な特徴は、家庭教育、幼稚園教育、小学校教育における絵本の利用であるということが新聞記事を基にした考察から明らかになった。続いて、出版・販売の統計に基づき、2000年まで近代的な絵本の市場が成立していなかった中国ではあるが、2000年代中頃以降急成長し、2010年代半ば以降、「翻訳絵本」の発展は急成長から安定成長に転じたことを明らかにした。最後に、「翻訳絵本」が中国で急成長し、社会・家庭に浸透した社会的背景についても明らかにした。「翻訳絵本」の急成長を支える社会的背景には、出版体制改革、家庭教育の重視及び「全民閲読」運動の推進の三つがある。本章では、まず2004年から急速に進められたかつての官営出版社が独立採算制に転換した出版体制改革と、都市部住民を主とする購買層の家庭教育の重視の二つの要因から「翻訳絵本」の急成長と浸透について分析した。

第四章では、第三章に続いて、中国において「翻訳絵本」が社会・家庭に浸透したもう一つの背景である、国家的戦略と位置付けられた、全国民の資質向上を図る「全民閲読」運動の一環としての「児童読書」・「親子読書」の推進について紹介し、さらにそれによって進んだ「翻訳絵本」の受容を考察した。

まず、「児童読書」・「親子読書」の推進に関する法令について分析を行い、少年児童図書館（室）が未成年者の読書推進に重要な役割を担うとして重視されるようになったことを明らかにした。次に、少年児童図書館（室）の整備、蔵書の充実を図るために公表された、中国国家図書館の児童書蔵書選定目録・推薦絵本目録に着目して、中国国家図書館の児童書蔵書選定・推薦事業の全体像を明らかにした。最後に、この国家図書館の作成した推薦絵本目録を具体的に考察し、選出された絵本には「翻訳絵本」が圧倒的に多いことを明らかにした。さらに、「翻訳絵本」を主とする『絵本100』等の推薦絵本目録を分析することを通して、この時期、中国は国際的・芸術的価値に重きを置いて外国絵本の翻訳出版の受容に積極的であったことも明らかにした。

第五章と第六章では、幼稚園の言語活動、小学校の国語教育を中心とする教育現場において、「翻訳絵本」を言語・国語教育の「教材」として使うという、中国における「翻訳絵本」の受容上顕著な特徴について、日本の「翻訳絵本」を中心に考察した。

以上の考察から導かれた結論は二つある。まず、日本と比較すると、中国の小学校国語科における絵本を「教材」とする関連研究で、「読解力」、「作文力」、「口頭での表現力」、「想像力」といった「国語力の育成」に重きが置かれていること理由は、中国では、絵本という「教材」と国語科の伝統的な授業法の「看图說話」「看图作文」との親和性が、絵本を用いる国語科の授業づくりを推し進めたためであるということである。次に、「翻訳絵本」が「児童教育」の「教材」としての価値を有している理由は、中国における教育方針の変遷や、1990年代後半から国家教育政策として積極的に推進された「素質教育」にあることを明らかになった。「市場経済」が著しく発展するさなかにある社会では、求められる人材が絶えず変容する。これに対応するため、中国では1990年代以降学習者の全面的な資質の向上を図る「素質教育」に教育の重点が置かれ、且つそれを国家の教育政策として積極的に進めた。こうしたなか、国が求める児童像に沿った人材育成を行う児童教育において、当時教材として使用する中国の児童文学作品に欠けている部分を補うのが「翻訳絵本」だったのである。

第七章では、2000年代以降中国における「翻訳絵本」の発展において看過できない存在としての、ポプラ社中国法人「蒲蒲蘭」が中国においては絵本の「教育的価値」を自社の事業戦略に組み込んで、更なる発展を遂げようとする道程を考察した。

本稿では、中国における「翻訳絵本」が急速に受容された理由は、それを教材として取り上げる側が、「素質教育」に適用できる、「想像力の養成」をはじめとする「教育的価値」を見出したためだと結論付けるに至った。

4,000字以内

Must not exceed 4,000 Japanese characters or 1,600 words.